

記者座談会

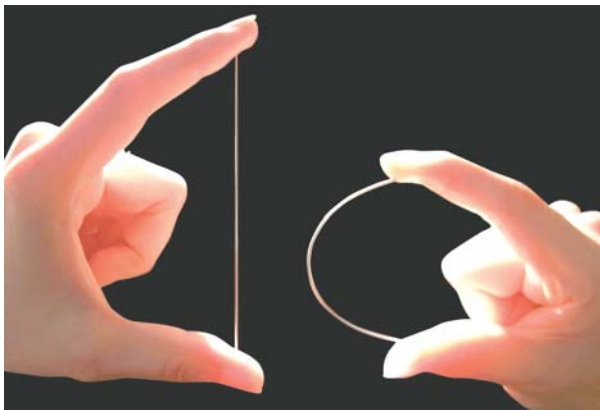
京都にはエレクトロニクスや精密機械、バイオをはじめ特定の事業で世界的な強みを持つ大手企業が多い。さらに、それに続く中堅・中小企業の層も厚い。大手と中小の織りなす複合的な産業構造が、京都企業の強さを支えている。経済の閉塞感は強まり、時代を切り開くベンチャー精神が今こそ求められる。そこで普段から第一線で取材している記者が、京都の中堅・中小の強みや課題、今後の展望などについて話し合ってみた。

多様なモノづくりの伝統を継ぎ
大手に深く食い込む

―京都には国内外で高シニアを擁する中堅・中小が数多くある。どのような要因があるのか。
A「京都はモノづくりも大手も業種が多様だから、技術者が独立して設立した中小が目立つ。数代続くオーナー企業だけでなく、大手から飛び出したベンチャーも多い」
B「半導体メーカー幹部も指摘していたが、京都市内は職人の町で、分業の精神と職人気質が残っている。古くからの企業は専門

自治体幹部が自ら宣伝役
コンサルティング的な支援も

―自治体の支援策には違いがあるのか。
B「京都は先進的だ。中小には個別の支援が理想だが、自治体の限られた体制や人員では支援メニューの用意にとどまってしまう。京都府は中小企業支援条例を作り、商工会議所の経営支援員で、中小企業応援隊を結成し、訪問目標3万社のトップ板敷を掲げている。中小をいかに育成するかに焦点を置き、コンサルティング的な支援で踏み込んでいく」
―期待はできるのか。
B「9月から府の商工労働観光部長自らが宣伝役となり、独自の優れた技術や製品を記者や府民に紹介する活動を始めた。部長の目利きによる独断で、紹介する企業を決めるという。金をかけず、知恵を絞る。できることをすぐに試してみようという」
C「自治体関連の研究開発と企業の共同研究が大きな成果を上げているケースもある。例えば、ある食品メーカーが共同開発した機能性食材は有名メーカーに採用され、一般にも普及した」
―公的な助成には常に問題点も指摘されるが。
A「ある機械メーカーは



▲ 中小の金属加工会社が微細技術を生かして開発した新製品

中堅・中小の独立心強みに

伝統産業の継承に危機感
環境・エネルギーは成長の好機

―中小は技術があっても、依然として取引などで不利を被りやすい。
A「発注を装った手機械商社の要請で設計図面を示す。しばらくして商社が類似製品を売り出したという話を聞いた。泣き寝入りする場面が多く、中小にとって技術の保全は死活問題だ」
B「中小は人員や規模からマーケティングに力を入れることが難しい。やはり優れたコーディネーターが必要だろう。たとえば大企業のOBがそのような活動に取り組みるとよいのではないが、京都に住んでくても『退職後を京都で過ごしませんか』とアプルするの多い。京都にゆかりのない企業がネットワーグを持ち、移住して来てもらえないか。もちろん国内や東京へのアプローチだけでなく、グローバルに呼び込む。京都は魅力ある居住環境を提供できるはずだ」
―京都が国内外に誇る伝統産業は、先細りが心配になる。販路拡大に結びつく

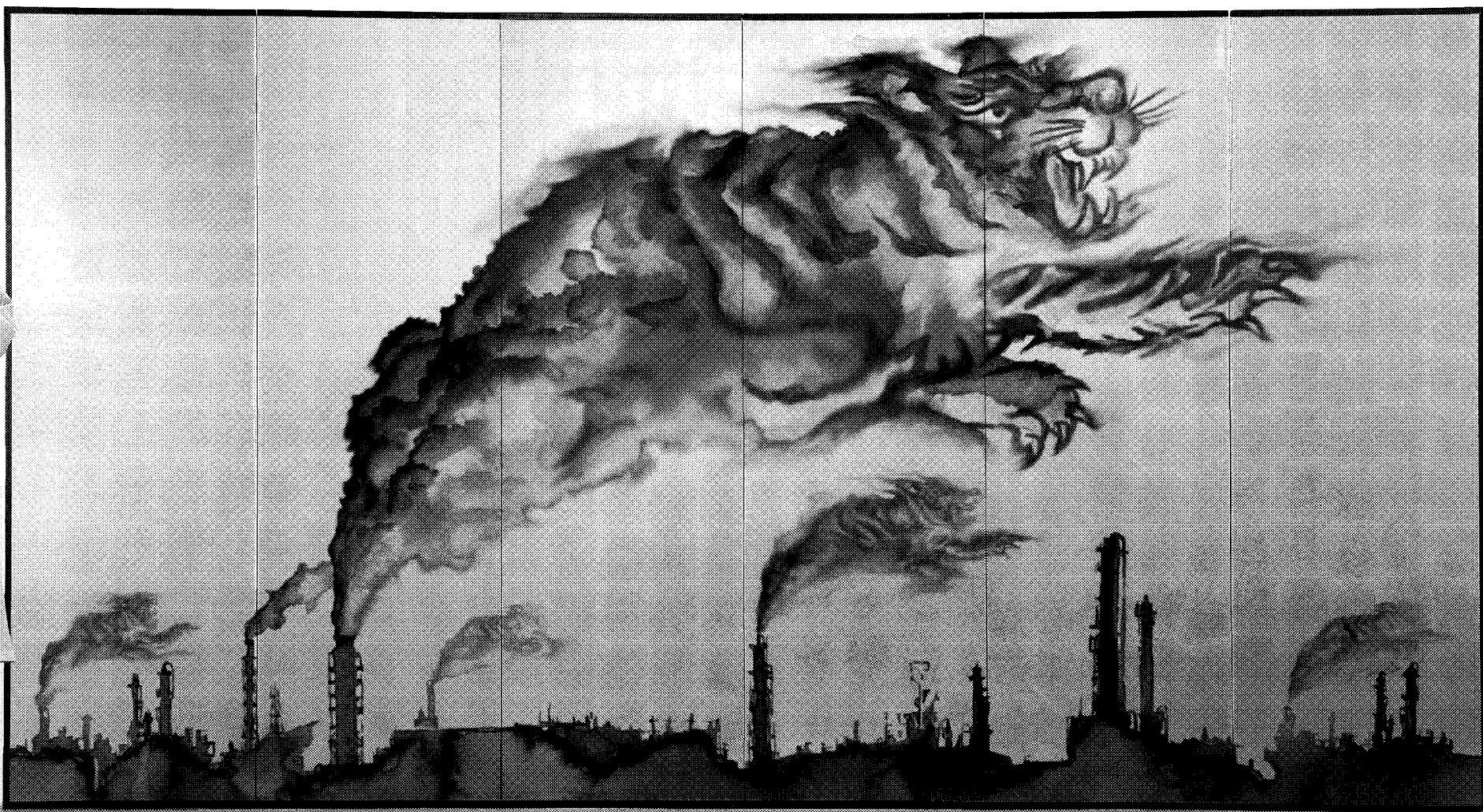
京都にはレーザー装置で高いシェアを誇る中堅メーカーも▼



には時間がかかる。そこで自治体は、継続的に海外の生の情報やネットワークを、提供しようとしている。海外進出したインテリア関連製品メーカーは、海外で入るとのつながりが初めからあるとのないのでは、取り組みやすさが全然違うと話していた」
―昔とは違い日本を代表する新しい企業が京都から生まれなくなった、という指摘をよく聞く。
A「二十数年前に大企業に躍進したベンチャーには、ITや流通、サービスに多い。経済のソフト化・サービス化が背景にある。だが、モノづくりは電機や自動車を中心に専攻化や巨大化が進み、その下請けに組み込まれた中小から大企業が生まれる余地は少なくなっている」
B「環境エネルギー関連は成長の好機だ。電子部品大手のトップは、システムインテグレーションをする会社が必要と話していた。それは商品やサービスを組み合わせ、エンドユーザーに付加価値をまわること。提供するようなビジネス形態だ。京都の資源を使えば、

京都らしさを未来へつなげる

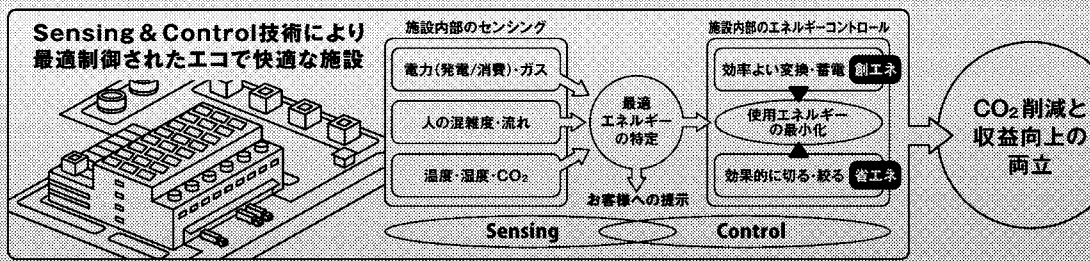
オムロンなら、屏風の虎、追い出してみせます。



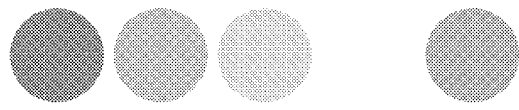
やっかいなCO₂を「見える化」してコントロール。企業のCO₂削減と収益向上に貢献します。

地球環境のために、オフィスや工場のCO₂排出を減らすこと。ビジネスの成長のために、生産性を向上させて利益を上げていくこと。企業活動に求められるこのふたつの課題、いちどに解決するのはむずかしいと思いませんか？じつは、技術を上手に生かせば可能になるんです。それが、オムロンのセンシング&コントロール技術。ふだんは見えない、

オフィスや工場のエネルギー消費。これをセンシング技術で「見える化」してコントロールすることで、CO₂とエネルギーコストを同時に削減。省エネをしながら生産性を上げることができ、収益向上に貢献します。経営負担になる省エネではなく、経営のプラスになるエネルギーマネジメントへ。エコの難問を解決するなら、オムロンにおまかせください。



人に、もっと最適な社会を。オムロンに、できること。



オムロン株式会社 コーポレートコミュニケーション部 TEL:075-344-7175 広告に関する問い合わせ TEL:03-6718-3430 www.omron.co.jp

Sensing tomorrow™

OMRON